

八女市議会議員 角田 恵一 様

行政視察報告書

八女市議会議員 栗原吉平



令和2年10月17日～18日

岐阜県飛騨市

飛騨市林業振興課 竹田慎二様

「広葉樹のまちづくり」による持続可能な地域づくりに向けてー

飛騨市の93.5%の森林のうち、68%を広葉樹という特徴を持つ、「飛騨の匠」と言われる高い技術とブナに代表される豊富な森林資源により飛騨高山市を中心に家具産地としても知られている。この森林を有効活用することが地域のブランド力形成に欠かせない。

森林に期待する働きとしては、地球温暖化防止や災害の防止、水源の涵養など多彩な働きがある、一方建材や家具として森林の活用が今日この地域に注目を浴びてきた。

現状としては国内で利用される広葉樹は、木材輸入自由化により海外から安価なかつ安定供給される輸入材に頼る構造となっていたために飛騨の家具でさえも大部分を外国産材に頼ってきた。しかしながら近年輸入材の先行き不透明であり、国産材についても大径広葉樹材の資源量の減少や、大型合板工場、木質バイオマス発電所の乱立により針葉樹の需要が急速に伸びたことから国産広葉樹の生産量が減ってきている。

世論調査によれば家具などに対する国産広葉樹を使用することへの期待は高まってきており飛騨地域のメーカーの声も多く、実際広葉樹のナラ材は高騰している。

にもかかわらず、日本の森林の約半分もある広葉樹については、お金にならないばかりか管理にするにも負の財産としてうまく活用が図られていないという矛盾がある。

広葉樹を活かす新たな仕組みづくり

広葉樹を地方創生のパートナーにするために、価値ある広葉樹を育て新しい価値を創造していく。「株式会社飛騨の森でクマは踊る」(通称ヒダクマ)を設立。

トビムシ→出資比率 13.5%

都市部へのチャンネルを活用した新たな商品の販売と林業木材の流通の新たな仕組みづくり

ロフトワーク→出資比率 54%

クリエイターネットワークを活用し、小径木による新たな商品を世界のものづくり人材や異業種との交流によりデザインする

飛騨市→出資比率 32.5%

豊富な広葉樹の活用による新たな経済循環の創出と豊かで質の高い市民生活の実現により持続可能な地域づくりを目指す。

視察感想

市内にはヒダクマの経営するカフェ、イベント開催、ワークショップ、ホテル、木製品企画開発、様々なチャンネルが用意され、官民一体となった運営は効果が出来てきていると感じる。広葉樹としては多くの資源が眠り、開発は容易と考える。針葉樹と違い伐採、造林、植栽、下刈りとなる針葉樹は、植栽から10年間程度は多くの資金が必要となるが、広葉樹の場合、伐採後は自然林として放置し、広葉樹は自然発生してくるため、育てる部分が極力、手間がかからないという利点がある。

これまでの経過から、市町村にしか出来ない斬新な取り組みで興味が出てきた、針葉樹の杉、ヒノキ等の利用価値を生み出すために、トビムシと契約している八女市も大いに業務提携していく必要をかんじた。

ただ、地域経済へのインパクトが限られているのではとの声もある、確かに広葉樹のほとんどが、私有林のため材の価値すら市民に分からない。また消費の部分に注目されているために、肝心の林業としての地域経済の潤いには今後問題として残るであろう。